

「自主性を持ち、目の前のことに意欲的に取り組むチームです。」

## 取材団体

- ・ ヴァンフォーレ甲府  
（一社）ヴァンフォーレスポーツクラブ  
（株）ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ
- ・ 公益財団法人オイスカ山梨県支部
- ・ 株式会社セイビドー

## チームの紹介

- ・ 藤原ゼミでは、行政に関心のあるメンバーが集まり、輪読や個人研究等に、一人一人が主体的に取り組んでいます。
- ・ 地方自治体のSDGs活動に、自分たちが協力し取り組むことで、行政とSDGsへの理解深めたいという思いから、SDGs企業レポート作成事業に参加しました。

### リーダー



一社目の企業さんのインタビュー担当だったから結構緊張したんだよね。事前準備したから、スムーズに取材を進められたよ。

3年: 杉山翔馬  
出身: 山梨県  
趣味: ランニング  
特技: バスケットボール  
好物: カニ

### 副リーダー



3年: 古屋翼  
出身: 山梨県  
趣味: 読書  
特技: ギター  
好物: うどん

取材とか、記事の作成とか貴重な経験をさせて貰ったよね。この事業でSDGsについて学んだことを、今後に活かしたいな。

セイビドーさんは、SDGs活動をしているチームがあることが印象的だったよね。良い雰囲気会社だと思ったな。

ヴァンフォーレさんは元々応援していたチームだったけど、今回の取材でSDGsに対する熱意が伝わってさらに応援したくなったよ。



3年: 野澤和希  
出身: 山梨県  
趣味: スポーツ観戦  
特技: テニス  
好物: ラーメン



3年: 渡邊さくや  
出身: 山梨県  
趣味: アニメ鑑賞  
特技: 書道  
好物: グミ

オイスカさんの取材では、自然環境に対する考え方とか、深い話を聞いたよね。自然に対して礼節を持つことは大切だと思ったな。



3年: 手塚達也  
出身: 東京都  
趣味: ラジオ  
特技: スポーツ  
好物: お菓子

# ヴァンフォーレ



## 「地域に愛され、試合に勝つスポーツクラブ」

### 取材担当

- ・杉山翔馬 (インタビュー担当)
- ・野沢和希 (写真担当)
- ・古屋翼 (書記担当)

### 「取材動機」

- ・山梨県を代表するスポーツクラブがどのようなSDGsの取り組みを行っているか、どんな思いを持って始めたのかを知るため。

### 「取材のポイント」

- ・活動内容だけでなく、始めたきっかけやその思いに注目し話を聞くようにしよう。



### 企業概要

(株)ヴァンフォーレ  
山梨スポーツクラブ

- ・クラブチーム発足：1965年
- ・従業員数:15名
- ・理念:「人々をつなぎ幸福をもたらす存在でありたい」
- ・事業内容：サッカークラブの運営

### SDGs活動



## 4つのKから多くの活動をしている

### エコスタジアム プロジェクト

- ・紙コップの使用をやめ、リユースカップを導入。
- ・エコステーションを設置してごみの分別回収に取り組み、2007年からは一部リユース食器も導入。



# ヴァンフォーレ



## 《4つのKを中心としたSDGs活動》

### SDGs活動について



**Q:ヴァンフォーレのSDGs活動について教えてください。**

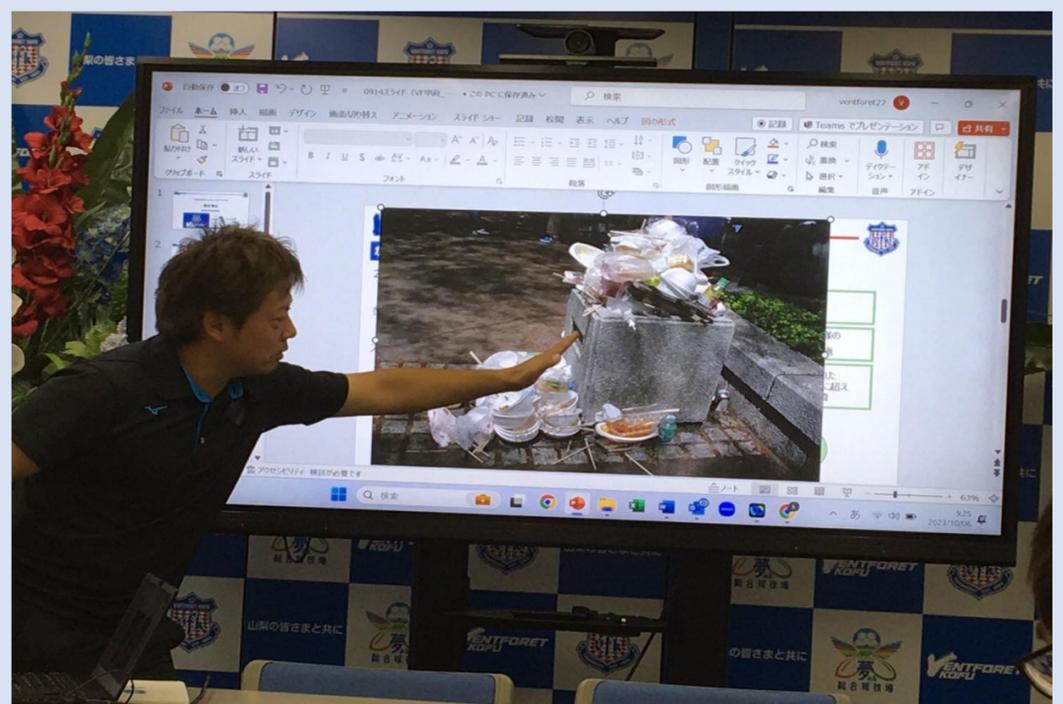
**A:**ヴァンフォーレでは、「健康」・「環境」・「教育」・「国際交流」の4つをキーワードにSDGsに取り組んでいます。中でも注力しているエコスタジアムプロジェクトでは2004から2021シーズンまでで累計1,004,000個のリユース食器が使用されました。これは**77.4トンのCO2量**を削減したこととなりました。

### SDGs活動にかける思い

**Q:SDGs活動を始めたきっかけを教えてください。**

**A:**スタジアムへのお客様が増えたことによってゴミの量も増えてしまった中、スポンサー企業を通じて、リユースカップを普及したいNPO法人を紹介され、導入することとなりました。

「**勝って愛されるチーム**」と「**愛されて勝つチーム**」の后者にヴァンフォーレは、ならなければならないので、そのために地域貢献活動や新しい取り組みを行う必要があると考えています。



インタビューに応じて下さった渡辺さん

# ヴァンフォーレ



## SDGs 活動でのメリット



**Q:SDGs活動を行うことでのメリットを教えてください。**

A:メリットとしては**スポンサー企業の増加と企業価値の向上**が挙げられると思います。

SDGsの活動からスポンサーになっていただける企業もありますし、先を見据えた活動によって、世界に評価されるクラブにしていきたいと考えています。

## 取材を終えて

### 担当レポーター：杉山翔馬

取材に行く前は、スポーツクラブがSDGs活動をする理由や目的は、集客力やイメージの向上など、利益のために行う側面が強いと考えていました。しかし、取材の中で、**活動の根本**には、地域住民や地域への感謝や貢献の気持ちあることを知り、驚きました。特に「**愛されて勝つチーム**」を目指している姿勢や考えは、とても印象的に感じ、ヴァンフォーレ甲府というチームのさらなる魅力を見れたように感じました。地域に貢献し、地域に愛されているヴァンフォーレをさらに応援したくなるように感じた取材でした。



山梨大学  
藤原ゼミ所属

# 公益財団法人 OISCA(オイスカ)山梨県支部



## 「林業と企業・市民の架け橋を担う」



### 取材に向けて

SDGsという言葉が浸透する前から環境問題に取り組んでこられたという点で興味を持ちました。現在のSDGsに対する考えや林業についてのお話を伺っていきたく思います！

取材担当：手塚、古屋



木で作られた落ち着いた空間で取材させていただきました

### 企業概要

- ・1993年に「(財)オイスカ山梨県世話人会」として発足
- ・2001年から支部として活動を開始
- ・主な事業：富士山の森、森のつみき広場

### 主なSDGs活動

#### 富士山の森



富士山の豊かな森林と生態系を100年後の未来に残すために2007年より始まった活動。行政・企業・地元住民・研究機関などと幅広く協働した森づくりを進めています。育林作業だけでなく、自然への理解を深めることもできます。



#### 森のつみき広場



子供たちに木で作られたおもちゃで遊んでもらうことで、木の良さを伝える活動です。積み木あそびのおもしろさや木製品への理解など親子で楽しむことのできるイベントです。

# 公益財団法人 OISCA(オイスカ)山梨県支部



## 「企業や市民といっしょになって活動する」

### 代表の田中さんへのインタビュー

Q: 「富士山の森」の特徴を教えてください。

A: 企業の森と異なり、**数社が協働している**ことです。それにも関わらず、看板は1つだけなのです。多くの企業がアピールやパフォーマンスのためではなく、本当の意味での森林保全活動に貢献してもらっています。



苗の植栽やシカ対策ネットの設置などを行っています



オフィスには木材からつくられたおもちゃがたくさん置かれていました

Q: 「森のつみき広場」の反響などありましたら教えてください。

A: はじめは、間伐材の利用して**“森のサイクル”**を構築するために行っていました。のちに、教育者の方からもつみきあそびは想像力や集中力が身に付くなどということで評価されています。参加した子供だけでなく、大人も木製品に親んでもらい、理解を深めていただく機会になっています。

Q: 公益財団法人という企業とは異なる立場ですが、意識していることはありますか。

A: 寄付をもらって活動していますが、寄付への理解は難しくなっています。そこで、企業に私たちの活動を理解してもらうことで、**一緒になって木製品の製造・販売を行い、活動資金を集めています。**こういった活動は、協力してくれる企業や購入していただく消費者の理解の普及にもつながっています。



【取材の様子】多くの資料を用意していただきました

# 公益財団法人 OISCA(オイスカ)山梨県支部



## 「社会貢献活動を企業の常識に」

### 林業との関わりについて

Q: 林業従事者が減少していますが...

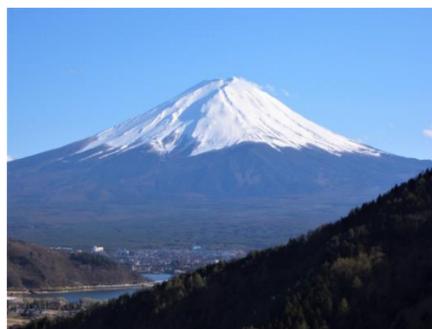
A: 林業は孤独で危険な作業のため女性からは避けられやすいです。林業と女性をつなぐ意味で「みずとり」香りのプロジェクトを立ち上げました。林業のイメージアップを図るとともに、林業家にもサイドビジネスの機会を提供しています。また、林業家自身にやりがいや、誇りを持ってもらうためにできるだけ人前に出て行く機会を作っています。



昨年開催された  
ハーブサミット



コロナ禍に医療従事者に配布された  
“富士山の森の香り”の除菌スプレー



木で作られたオリジナル  
SDGsピンバッジ

### 田中さんの思い・考え

Q: 市民や企業の方へのメッセージを聞かせてください。

A: 企業イメージのためのパフォーマンスでなく。本質的なSDGsの推進に取り組んでほしいと思っています。企業理念の中に当たり前SDGsの心が入っている社会になってほしいと思っています。

### 取材を終えて

## 担当レポーター： 手塚 達也

・ 林業に関しては身近に感じていなかった産業の一つでした。ですが、オイスカさんの取り組みと環境に対する考え方を聞いて**消費者としての責任や自然と共存**についてより考え、林業の今後についても考えるきっかけになりました。  
・ パフォーマンスではない本当の意味での**環境保全活動の推進**や、**木製玩具を使った教育活動**など、様々な活動に強い熱意を持って取り組まれていると感じました。  
また、将来世代の人への考えなど、貴重なお話も聞くことができ、とても勉強になりました。



山梨大学  
藤原ゼミ所属

## 「地域社会に明るい豊かな生活を提供する」

### 取材担当

- ・ 古屋翼 (インタビュー担当)
- ・ 野澤和希 (写真担当)
- ・ 渡邊さくや (書記担当)

### 「取材動機」

不要眼鏡や補聴器の回収・寄附、社員の労働環境向上といった取り組みを進めており、取材を通してSDGsについてだけでなく企業の福利厚生についても学ぶことができると考えたため。

### 「取材のポイント」

- ・ SDGs活動について、具体的な内容や、活動を始めたきっかけ、メリット・デメリット、今後の目標など、様々なお話を伺う。
- ・ SDGs活動に対しての思いや考えに着目し、詳しくお話を伺う。



### 企業概要

**創業**：明治 28 年  
**従業員数**：33名  
**理念**：「お客様、社員、地域社会に明るい豊かな生活を提供する」  
**主な事業内容**：メガネ・補聴器等販売

### SDGs活動

#### 「眼鏡・補聴器の回収、寄付」

- ・ 店頭で不要になった眼鏡・補聴器を回収。
- ・ 眼鏡はライオンズクラブ眼鏡リサイクルセンター様、補聴器はスターキーきこえの財団様を通じて寄付。

#### 「有休の満足度向上」

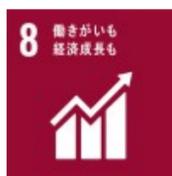
- ・ 毎年の有休へのアンケート調査。
- ・ 有休の取得推進活動により、有給の取得しやすい環境作りを推進。

#### 「紙資源の削減」

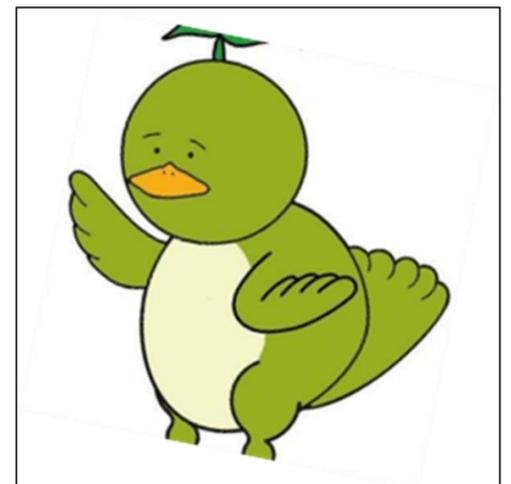
- ・ 事務書類等のペーパーレス化。
- ・ ティッシュの無駄な使用量を削減。

#### 「SDGsの推進」

- ・ マスコットキャラクターの作成。
- ・ HP、SNSで活動情報を発信。



#### ティッシュ啓発シール



マスコットキャラクター「せいびどり」

「ティッシュ箱にシールを貼り、社員にティッシュペーパーの使用を減らすように呼びかける。」

## 「SATを中心としたSDGs活動」

### SDGs活動について

Q: セイビドーのSDGs活動について教えてください。  
A: セイビドーでは、社内の有志6名で「SAT」というチームを結成し、SDGs活動に取り組んでいます。具体的には、「**不要な眼鏡・補聴器の回収**」、「**ティッシュペーパーの使用量削減**」、「**有給休暇の満足度向上活動**」の三つに取り組んでいます。また、SDGsを広げるため、HP・SNSにてSDGs活動を発信しています。

### 活動実績・SATについて

Q: 活動実績について教えてください。  
A: **眼鏡を101本、補聴器を10個**回収しました。ティッシュペーパーの使用量を東京ドーム約**12.6個分削減**しました。また、有休取得日数を平均より**1～2日増加**させました。  
Q: SATについて詳しく聞かせてください。  
A: SATとは、「**Sustainable Active Team**」の略称です。メンバーの中で一番若い方（北村さん）がリーダーを務めており、良い意味で上下関係にとらわれないチームです。有志で結成しているため、メンバー全員が主体的に活動しています。



インタビューに応じて下さった  
興石さん（写真左）北村さん（写真右）

### きっかけ・メリット、デメリットについて

Q: SDGs活動を始めたきっかけを教えてください。  
A: 一番最初は、SDGsのバッジを「**かっこいい!**」と感じ取り組み始めました。現在では、地域貢献のため本格的な取り組みを進めています。  
Q: SDGs活動によるメリットやデメリットについて聞かせてください。  
A: **企業イメージが向上したことや、組織全体の結束力が強くなったこと**、社員の良さを発見できたことが主なメリットです。反対にデメリットとしては、企業としての**活動の限界を知ったこと**、**業務量が増え、社員の負担が増えてしまったこと**が挙げられます。



### 「新たな目標に向け、小さな事から取り組む。」

#### 取り組みの方針・目標

Q: 今後はどのようにSDGs活動を進めていきますか。

A: 既存の事業を継続し、さらに発展させていこうと考えています。また、既存事業に加え、**ジェンダー平等**に向けての取り組みを進めていきます。(男性の育児休暇取得の推進、差別解消のための研修等)

Q: 2030年までに、企業として達成したい目標はありますか。

A: **眼鏡の回収本数を千本まで増やすこと**や**補聴器の回収個数を百個まで増やすこと**が現在の目標です。また、**有休取得日数を5日増やすこと**も目標です。

#### 思いや考え

Q: SDGs活動への思いや考えを聞かせてください。

A: **輿石さん**

「一人一人ができることをやって、それが大きな成果に結びつければ良いと考えています。」

**北村さん**

「企業として出来ることは限られていますが、その中で一生懸命に取り組んでいこうと思っています。」



#### 取材を終えて

#### 担当レポーター：古屋翼

- ・企業は利益を出すことが優先であり、社会貢献事業は意欲的ではないという印象でしたが、セイビドー様は社員の方々が協力し、積極的にSDGsに取り組んでおり、**SDGs活動への熱意**が伝わってきました。
- ・メンバーが積極的に意見を出し合える環境が実績に結びついていること、社員の有休満足度向上への取り組みから、**組織文化や人間関係**がSDGs活動に良い影響を及ぼしていると思います。
- ・セイビドー様は、眼鏡・補聴器の回収・寄付に取り組まれていて、**企業としての特色を活かしたSDGs活動**を進めていることが素敵だと感じました。



山梨大学  
藤原ゼミ所属

めがねの  
回収  
始まる